

公的機関へのクラウド型翻訳システムの 本格導入に向けて

平成31年4月26日

総務省

- ラグビーワールドカップ(2019年)、オリンピック・パラリンピック(2020年)、大阪・関西万博(2025年)等の世界的イベントの開催、訪日・在留外国人の増加や新たな外国人材の受入れを見据え、**外国人対応が必要な様々な場面において容易に多言語音声翻訳システムを導入できる環境の実現が必要。**

多言語音声翻訳プラットフォームにより、社会実装を容易とする環境を実現

＜公的機関へのクラウド型翻訳システムの本格導入に向けてさらにクリアすべき課題＞

課題① 適切なプライバシー・セキュリティの確保

・公的機関の窓口業務等において必要と想定される「プライバシー保護」、「セキュリティ」の確保(クラウドが満たすべき技術的保護要件等の整理)

課題② クラウド導入についての検討

・政府情報システムにおける「クラウド・バイ・デフォルト」の原則に沿った導入検討(個別府省毎に実施すると負担大)

- **各府省のご協力の下、外国人対応業務を洗い出し、自動翻訳システムに入力されうる情報の整理・類型化を行う。**
- 総務省は、上記の類型化を踏まえ、公的機関向けクラウド型翻訳システムが具備すべき技術的保護要件等を整理する。
- 公的機関へのクラウド型翻訳システムの導入に向けて、自動翻訳利活用府省により、**府省横断的な「クラウド・バイ・デフォルト」の原則に沿った検討を実施する。**